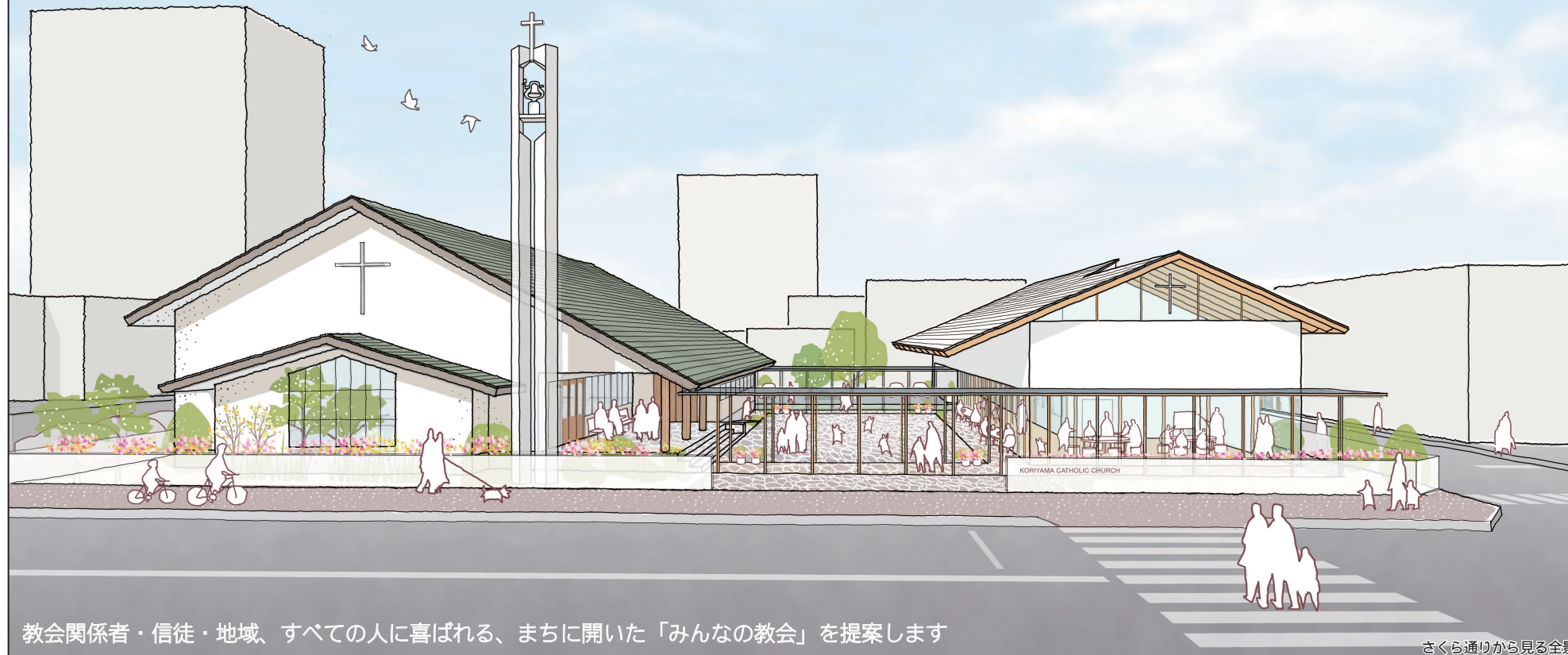
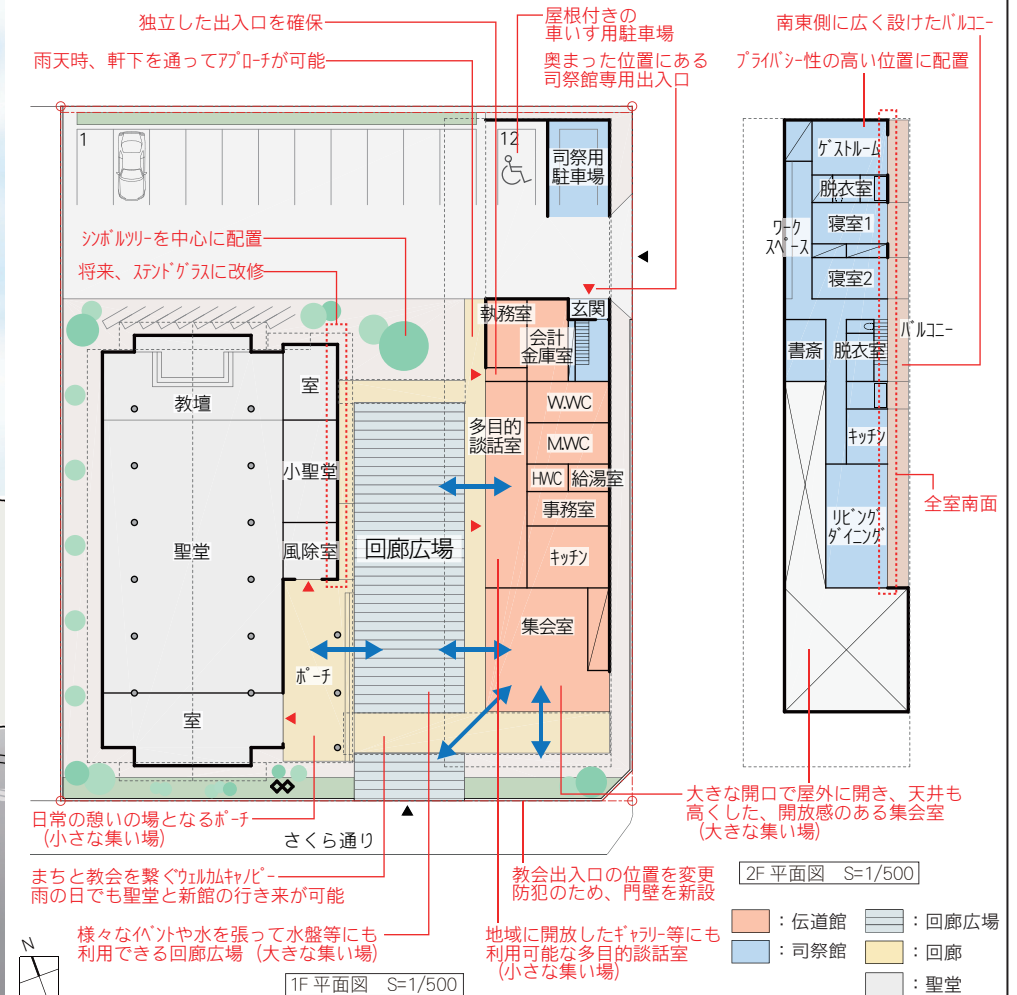


回廊広場で繋がるみんなの教会



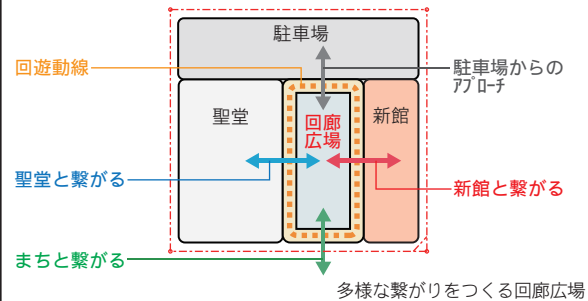
教会関係者・信徒・地域、すべての人に喜ばれる、まちに開いた「みんなの教会」を提案します

さくら通りから見る全景



0. すべてがつながる回廊広場の提案

- 中央に配置した回廊広場は、「聖堂」・「新館」あるいは「周辺地域」の「人と人」・「活動と活動」・「場所と場所」等のつながりをつくります。
- これらのつながりは、回廊広場を中心に、まちに開いた賑わいをつくります。



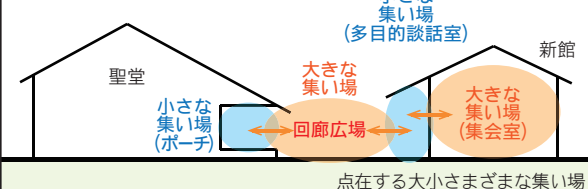
1. 歴史を尊重した教会建築の提案

■原風景の切妻屋根

- 切妻屋根とすることで、日除けや雨除けなどの機能性と人々の原風景としての懐かしさや親しみのあるデザインとします。

■歴史を受け継ぐ新たな「集い場」

- 112年の歳月で築かれてきた「歴史」や「活動」などを受け継げるよう、大小さまざまな「集い場」を点在させます。



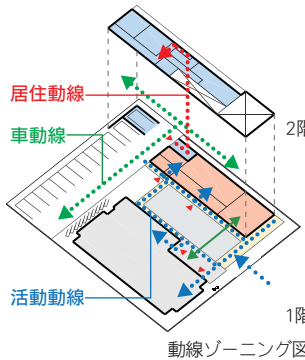
2. 機能性の高い教会建築の提案

■明確に分けた動線計画

- 車動線、活動動線、居住動線を明確に分け、わかりやすい動線計画とします。

■合理的な配置計画

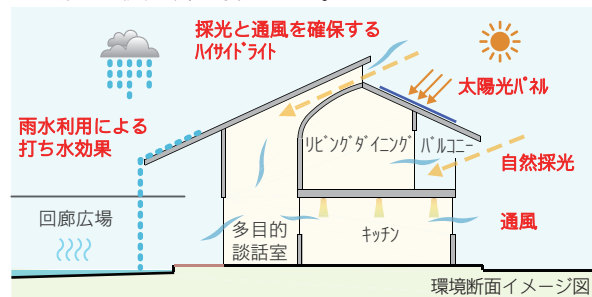
- 教会は「さくら通り」に面した聖堂側に配置します。
- 信徒の移動を考慮し、集会室は聖堂の近傍に配置します。
- 雨天時でも移動しやすいよう、聖堂と新館の間にキャノピーを設置します。



4. パッシブデザインを考慮した教会建築の提案

■自然エネルギーを最大限利用

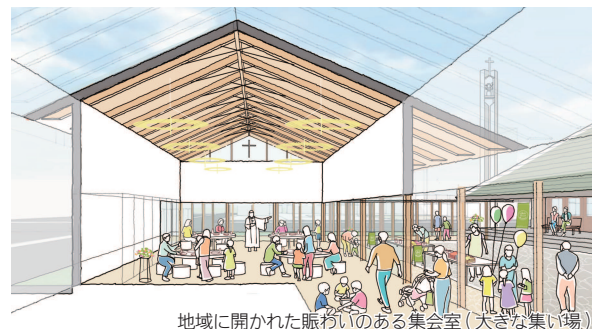
- 太陽光パネルの設置等により、ランニングコストを抑え、南側からの採光や通風を最大限確保します。
- 回廊広場では、雨水利用による打ち水を行い、夏場の温度上昇を抑えます。



5. 地域に根差した教会の実現のための提案

■まちに開いた教会

- 多様な催し物が行われる「集会室」や「回廊広場」を地域に開くことで、人々が気軽に利用できる賑わいの場を実現します。



6. 本施設の計画におけるその他の提案

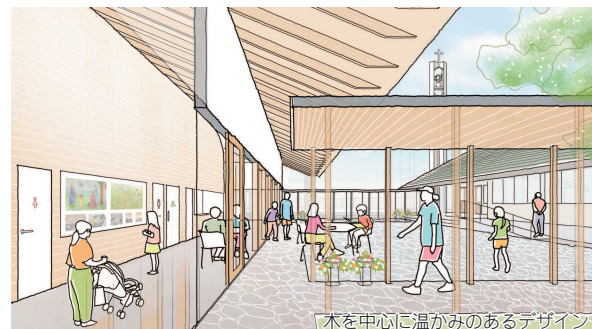
■快適な司祭館の居住環境

- 居室を南東側に配置し大きな掃き出し窓を設け、採光・通風を確保した快適な環境をつくります。
- すべての居室にバルコニーを設けることで、道路からの引きを取り、プライバシーを確保します。



■まちに開いた、親しみのあるデザイン

- 構造だけでなく、内外装の仕上にも積極的に木を使い、温かみのある空間をつくります。
- 聖堂と教会をつなぎ、人々を迎え入れるウェルカムキャノピーを設置し、教会の顔をつくります。



■色々なシーンを楽しめる回廊広場

- 回廊広場は、東面は賑わいのある「集い場」、西面は歴史のある聖堂の「スタンドグラス」、南面は日常のまちを映し出す「さくら通り」、北面は教会の中心に育む「シンボルツリー」、上面は広大に広がる「空」、下面は多くの人を迎える「石畳」等、さまざまなシーンを楽しめる空間になります。



■段差を無くした、1階床レベル

- 新館は、集中豪雨時の雨水の侵入を防ぐため、周辺地盤面から、30cm程度1階の床レベルを上げます。ただし、外から建物内への段差を無くすよう、床を緩やかに擦りつけます。

■概算予算 (設計費を含む)